



# 調布市内の福祉作業所は 私たちが若い力が 担っています!

調布市福祉作業所等連絡会に所属する事業所の「職員スポーツ交流会」が、染地にある楽天地フットサルコートで行われました。「ミックスゆるフットサル」と名付けられたこのイベントは、男女問わず若手もベテランもゆるゆるフットサルを楽しもうというイベント。連絡会では、このような団体・職員間の交流を目的に、年1回さまざまなスポーツイベントを開催しています。

7月末の夏の夕べ、暑さの残るグラウンドに集ったのは46名の精鋭。平日の仕事終わりに関わらず、意気ハツラツとボールを追って走りまわります。

調布では1970年代に養護学校卒業生の「行き場」をつくるために、最初の福祉作業所が立ち上がりました。以来、当事者、家族、社会の要請に応じて徐々にその数を増やして行き、規模も大きくなっていきました。40年あまりたった現在、「行き場」を作るために無認可で作業所を立ち上げた時代から、法整備された中で、「その人らしく暮らすためのさまざまなメニューを提供する」時代へと作業所は変遷し、事業内容も多様化してきています。そして、携わるスタッフも大幅に若返りました。

しかし、スタッフの「利用者が生き生きと地域で暮らす手助けがしたい」という熱い思いは変わることなく、脈々と引き継がれ、現場では、若いスタッフと利用者が生き生きと働いています。「わくわく」では、そうした現場や仕事内容、日常生活の様子をお伝えする事で、家族や作業所の関係者だけでなく、地域に住む多くの人とともに、障がいのある人も楽しく暮らせるまちづくりの一役買いたいと願っています。

調布市福祉作業所等連絡会には、2015年9月現在、30団体、45事業所が加盟し、利用者は1200名（登録数）を数え、支援するスタッフは480名余りになります。



決勝戦は同点で、勝敗はなんと、じゃんけん! じゃんけんも真剣そのもの(笑)



経験者もいるのに迷プレーも続出。やりはじめたらみんな結構真剣モード!



この日は5チームに分かれてトーナメント形式でゲームを楽しみました



男女混合。女性にも経験者がいて男性陣もタジタジ



このフットサル場は人工芝で照明完備。温水シャワーもあり、いつでも良い汗が流せます



若手はもちろんガチモード